

飲酒と死亡リスクの関連：宮城県コホート

Alcohol consumption and mortality in Japan: the Miyagi Cohort Study.
2004 年 Journal of Epidemiology 発表

飲酒と死亡リスクに関連あり

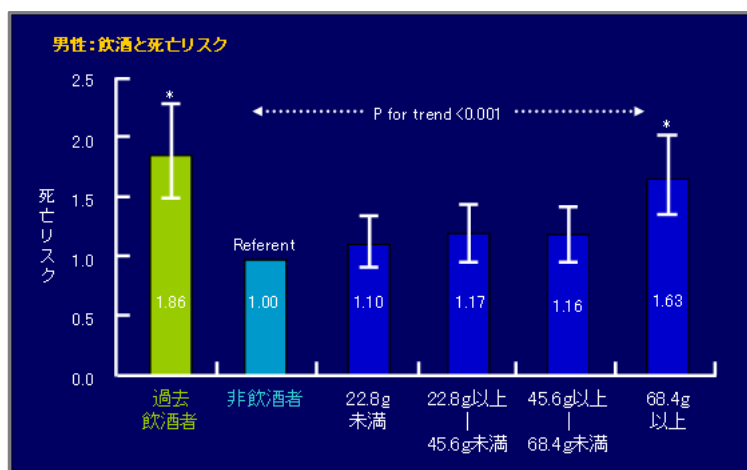
近年、大規模前向きコホート研究で飲酒によるがん、脳血管疾患、心疾患リスクが上昇するという報告があります。しかし、日本での研究数は未だ少ない現状です。

本研究では、日本の一般地域住民を対象とした大規模前向きコホート研究により飲酒と死亡リスクの関連を検討しました。また、年齢別に層別化した解析を行い飲酒による死亡リスクの関連を検討しました。

その結果、男性では、非飲酒者に比べ現在飲酒者では有意な死亡リスクの上昇を示しました。さらに、飲酒量が増すほど死亡リスクの上昇が示されました。

特に、アルコール消費量 68.4g 以上/日では非飲酒者に比べ、62%死亡リスクを高めることが示されました。女性では、飲酒量が増すほど死亡リスクの上昇が示されました。アルコール消費量 68.4g 以上/日では、非飲酒者に比べ 98% 死亡リスクを高めることが示されました。

また、年齢層別での検討では、男性において 40-49 歳、50-59 歳、60 歳以上の全ての年齢層で飲酒量が増すほど死亡リスクの上昇が示されました。特に、40-49 歳の年齢層では飲酒による死亡リスクが顕著に上昇していました。



研究のデータについて

ベースライン調査：1990 年 6 月から 8 月に、宮城県内 14 町村在住の 40-64 歳の全ての住民を対象に、生活習慣に関する自己記入式アンケートを配布し、4 万 7605 人から有効回答を得ました。回答率は 92% です。生活習慣に関する調査内容は、病気の既往歴と家族歴、体型、健診受診、女性の出産歴などに関することなどの健康状態、運動習慣、喫煙、飲酒、食事などの生活習慣、職業、婚姻状況、学歴、健康保険加入状況などの社会的な状況から構成されています。

追跡調査：ベースライン時にがん (1143 人)・脳卒中 (379 人)・心筋梗塞 (582 人) の既往歴を有する者、飲酒に関連する質問への回答に不備のあった方 6468 人を分析の対象から外しました。ベースライン調査時から 2001 年 3 月 31 日までの追跡調査で、3 万 9076 人の対象者のうち 1879 例の死亡者が確認されました。

飲酒の摂取について (1 日当たりのアルコール摂取量の換算)

アンケート調査では、まずお酒を飲む、飲んだことがない、飲んでいたがやめた、という 3 つの選択肢から、いずれかの回答を選んでいただきました。次に、飲む人には、どれくらいの頻度で飲むか、1 日あたりの飲酒量はどれくらいかを、お酒の種類別に尋ねました。日本酒 1 合は約 180ml で、アルコール消費量で 22.8g になります。本研究では、非飲酒者、過去飲酒者、現在飲酒者 (アルコール消費量 22.8g 未満/日、22.8g-45.5g 未満/日、45.6g-68.3g/日、68.4g 以上/日) に分類しました。

研究の特徴と限界について

本研究では、飲酒が死亡リスクに与える影響を検討し、男女ともに飲酒量が増すほど死亡リスクの上昇が示されました。特に、男性においては 40-49 歳の年齢層でその関連が顕著に示されました。本研究は、いくつかの長所があります。第一に、本研究の死亡数が 1879 例であり、統計的に安定した結果が得られました。第二に、信頼性・妥当性が確立されている飲酒に関する質問票を用いました。第三に、多くの社会的要因や生活習慣を考慮して解析を行いました。